

株式会社FRONTEO 2026年3月期 通期 各種説明会 質疑応答

主な質疑応答の内容です。内容につきましては、ご理解いただきやすいよう、部分的に加筆・修正しております

(質問 1)

ライセンスアウト(導出)パイプラインのスライドを初めて掲載されたが、収益化が見えてきたということか。

(回答 1)

ライセンスアウトとは、細胞実験や動物実験といった前臨床試験で効果が出た創薬候補物質を製薬会社へ売却することを言う。その金額は、契約時の一時金として数億円から数十億円規模の対価を受領する可能性があるほか、開発の進捗や製品化・販売開始といった節目ごとに総額で数百億円規模の追加の対価を受領する可能性がある。

当社は現在4つのパイプラインを保有しており、その一つであるエヌビー健康研究所との案件は、最短で2026年度中の製薬企業への導出を目指している。

また、自社研究のすい臓がん案件や他社との共同プロジェクト案件などを保有している。

すい臓がん案件は、米国におけるがん研究の中核機関の一つであるオクラホマ大学で研究を推進しており、今後は動物実験により、さらなるエビデンスを蓄積する。

(質問 2)

2027年3月期ガイダンスの見通しの要因を教えてください。

(回答 2)

2027年3月期の売上高は前年比横ばいの76億円、営業利益は約60%減の3億円。

セグメント別はライフサイエンス AI 事業の売上高は前年比45%増の15億円、営業利益1億円、通期黒字化。

引き続き大幅な増収増益を見込む。本格的な収益化を実現し、利益貢献していく。

共創プロジェクトの継続的な積み上げによるアップフロント型の安定収益に加え、将来的な創薬パイプライン導出によるライセンスアウト一時金やマイルストーン・ロイヤリティなどのアップサイド型の収益の獲得を見据えた DDAIF Innovation Bridge 案件の拡充により収益を積み上げる計画。

リスクマネジメント事業は、売上高前年比18%減の35億円、営業利益は85%減の9,500万円。

リスクマネジメント事業は、一部のリカーリング案件解約ならびに縮小の影響により減収減益を見込む。

BIの案件減少の一因は、LSAI および ES への経営資源の重点投資により、BI 領域への成長投資が後回しになった結果、新規案件の獲得件数が限定的になった。

今後は、プロダクトおよびサービスポートフォリオの戦略的な選択と集中を通じて収益構造の抜本的な見直しを進め、中長期的な競争力強化を推進。持続的な利益創出を図る。

DX 事業は、売上高は前年比 11%増の 26 億円、営業利益は前年比 6%減の 1 億 500 万円。

DX 事業(アルネッツ)は、2025 年度は統合作業を優先したため採用などの投資を抑制。2026 年度は成長に必要な投資を織り込み営業利益 4%で計画。

連結業績の計画は下期偏重であり、2027 年 3 月期第 1 四半期においては一時的な営業損失を見込む。下期にかけて収益が拡大する見通しであり、通期では黒字を計画している。

(質問 3)

すい臓がん案件の今後の見通しを教えてください。

(回答 3)

FRONTEO の DDAIF で発見したすい臓がん新規標的分子候補を米国オクラホマ大学武部教授の研究室において検証試験を行った。結果はオクラホマ大学でも効果が確認された。

今後動物実験を実施していく。動物実験によって十分なエビデンスが得られた場合、製薬企業への導出を想定している。

2026 年 5 月 12 日にプレスリリースで開示。

(質問 4)

2029 年 3 月期を目標とされている、ステージ 4 はどうなるのか。

(回答 4)

今回のガイダンスを踏まえて内容を精査する。詳細は、6 月 25 日開催の株主総会前に公表する事業計画及び成長可能性に関する事項で開示する予定。

以上